

## 鉄鋼標準試料委員会ニュース

No. 48

## 鉄鋼標準試料委員会年間活動報告—1982年

## 1. 会議開催状況

昭和 57 年中は、本委員会 2 回、常任委員会 5 回の合計 7 回の会議を開催して日本鉄鋼標準試料 (JSS) を製造頒布した。

会 議	開 催 日	会 場	出 席 者
第 60 回本委員会	昭和 57 年 6 月 11 日 (金)	経団連会館 903 号室	川村委員長ほか 20 名
第 61 回本委員会	昭和 57 年 12 月 17 日 (金)	鉄鋼協会会議室	川村委員長ほか 14 名
第57/I 回常任委員会	昭和 57 年 3 月 12 日 (金)	鉄鋼協会会議室	川村委員長ほか 13 名
第57/II 回常任委員会	昭和 57 年 4 月 23 日 (金)	経団連会館 1101 号室	大槻幹事ほか 14 名
第57/III 回常任委員会	昭和 57 年 7 月 27 日 (火)	経団連会館 1103 号室	川村委員長ほか 14 名
第57/IV 回常任委員会	昭和 57 年 9 月 10 日 (金)	経団連会議室 1106 号室	川村委員長ほか 15 名
第57/V 回常任委員会	昭和 57 年 11 月 5 日 (金)	経団連会議室 902 号室	川村委員長ほか 11 名

## 2. 日本鉄鋼標準試料 (JSS) の更新又は新製品化状況

昭和 57 年中に更新又は新製品化した日本鉄鋼標準試料 (JSS) は、つぎの 8 種であった。

シリーズ	JSS No.	品種数	素材提供会社
鉄素専用鋼	111- <sub>1</sub>	1	新日本製鉄
炭素専用鋼	201- <sub>1</sub>	1	新日本製鉄
硫黄専用鋼	242- <sub>1</sub>	1	川崎製鉄
ホウ素専用鋼	361- <sub>1</sub> , 362- <sub>1</sub> , 363- <sub>1</sub> , 364- <sub>1</sub>	4	住友金属工業
イスコール赤鉄鉱	804- <sub>1</sub>	1	日本鋼管

## 3. 報告事項

- (1) 機器分析用鋼標準試料で素材番号の表示方法を従来の打刻から捺印に変更する。この捺印方法は鋼板標準試験片などに用いられている腐食法を利用したもので、簡単で良い方法だが、試料の保管雰囲気気に気をつけてほしい。
- (2) 標準値の決定方法で、極微量域における取扱いを一部改訂した。
- (3) 製造順序番号のうち孫番が 9 を越す場合は、2 桁 (10, 11……) として続けることにした。

## 4. 検討事項

## 4.1 新品種の製造

- (1) 高純度鉄で JSS 001-1 は昭和 58 年 1 月に頒布予定、JSS 002-1 は極微量成分の定量法を検討中。
- (2) フェロアロイ (3 種) F-Mo, F-V, F-Nb は分析中。

## 4.2 更新品種の製造

- (1) 機器分析用の微量元素シリーズ B (JSS 168~175)、普通鋼シリーズ A (JSS 420~461)、標準化シリーズ A (JSS 162~167) 及びステンレス鋼シリーズ A (JSS 650~655) は分析中。
- (2) フェロアロイ (2 種) Si-Mn, HCF-Cr は分析中。
- (3) 炭素鋼 (2 種) (JSS 023, 065) は試料調製中。
- (4) その他、銑鉄 (2 種)、専用鋼 (6 種)、低合金鋼 (9 種)、鉄鉱石 (2 種) は素材製造中。

## 4.3 その他

- (1) 標準化シリーズ A 及び微量元素シリーズ B で作成されるほう素定量用検査線が 2 本に分かれる原因調査のため、化学分析分科会に標準値のチェックを依頼したが、問題なかった。これらのシリーズで現在製造中のものについて、再度調査することにした。
- (2) 鉄鉱石分析方法で蛍光 X 線分析方法 (ビード法) が昭和 57 年度中に JIS 化されるため、鉄鋼原料品位調査委員会では T.Fe を除く他の成分の検収分析法として採用する準備を始めた。このため日本鉄鋼標準試料鉄鉱石シリーズで不足するものを補充する必要が生じ、ペルー鉱石 (高 S 用)、MBR 鉱石 (低 SiO 用) を新しく製造し、また酸化鉄 (JSS 802-3) の微量成分の標準値決定を急ぐことにした。
- (3) 鋼中ガス分析用管理試料を製造したが、鋼中ガス分析分科会の検討でも偏析が認められたので、販売は取り止め、新しく作り直すことにした。
- (4) JSS に関する講習会を東京 (2 月 4 日) 及び大阪 (2 月 10 日) で開催した。多数の参加をえて、好評であった。今後も場所を変え年 1 回程度開催する予定。
- (5) 非金属介在物分析分科会の共同研究の成果である鋼中炭化物抽出分離定量用標準試料の作成について、日本鉄鋼協会から第 1 回山岡賞の表彰を受けた。